

「独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センターコスト構造改善プログラム」に基づく平成21年度総合コスト構造改善実績について

独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター（以下「センター」という。）では、コストと品質の両面を重視した「独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センターコスト構造改善プログラム」（以下「プログラム」という。）を策定し、平成20年度から平成24年度までの5年間で、平成19年度と比較して、15%の総合コスト改善率を達成することを目標としています。

センターにおける平成21年度のコスト改善実績は、以下のとおりです。

1. 独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター事業の平成21年度実績

【平成21年度の総合コスト改善率】

・総合コスト改善率	改善率：6.8%	改善額：30億円
・物価等の変動を含めた改善率	改善率：5.7%	改善額：25億円

総合コスト改善率は、従来の「工事コスト構造の改善」に加えて、「ライフサイクルコスト構造の改善」及び「社会的コスト構造の改善」等も考慮した改善率

物価等の変動を含めた改善率は、総合コスト改善率に、建設工事に使用する建設資材費・労務費の変動を考慮した改善率

改善率の算定式を見直したことにより、平成24年2月に改善率を変更(6.7% → 6.8%)

【参考】

平成21年度の総合コスト改善率の内訳

平成21年度	工事コスト構造の改善による効果	ライフサイクルコスト構造の改善による効果	社会的コスト構造の改善による効果	合計(総合コスト)改善率	物価等の変動率	合計(物価等変動)含み
実績	5.2%	1.6%	0%	6.8%	1.1%	5.7%

【資料1】コスト改善取組概要

工事コスト構造の改善 《改善率 5.3% 改善額 23.4億円》

計画・設計・施工の最適化

水源林造成事業において、作業道に丸太組工法を導入し、土工事量を削減したことによるコスト改善（別添資料2-1参照） 《改善率 2.5% 改善額 10.9億円》

農林業用道路の特例値（勾配）を活用し、土工量を削減したことによるコスト改善（別添資料2-2参照） 《改善率 0.9% 改善額 4.1億円》

水源林造成事業において、モザイク施業の導入に伴う裾枝払の事業費の縮減（別添資料2-3参照） 《改善率 0.3% 改善額 1.5億円》

水源林造成事業において、枝打の実施目的を見直し、実施面積を縮減したことによるコスト改善 《改善率 0.8% 改善額 3.6億円》

資源循環の促進

水源林造成事業において、作業道の路面敷砂利に再生砂利を利用したことによるコスト改善 《改善率 0.2% 改善額 0.7億円》

農林業用道路の法面基盤材について、根株をチップ化し再利用することによるコスト改善 《改善率 0.1% 改善額 0.4億円》

農業用道路工事から発生する残土を他事業の土工事に活用することによるコスト改善 《改善率 0.5% 改善額 2.1億円》

新技術の導入、地域特性の重視

農業用道路工事においてプレキャストガードレール基礎工法の導入、転落防止柵設置工において直営施工方式を活用によるコスト改善 《改善額 微小》

ライフサイクルコストの削減 《改善率 1.5% 改善額 6.8億円》

水源林造成事業において、長伐期化等の推進によるコスト改善

《改善率 1.5% 改善額 6.8億円》

具体的事例の代表的な取組例(平成21年度)

計画・設計・施工の最適化

作業道開設において丸太組工法の導入によるコスト改善

概要：作業道の開設にあたって、路肩に丸太を組む丸太組工法を導入。

効果

路肩に丸太を組むことにより切取法高を低くし、土工事量を削減することでコスト構造を改善。

丸太組工法の流れ



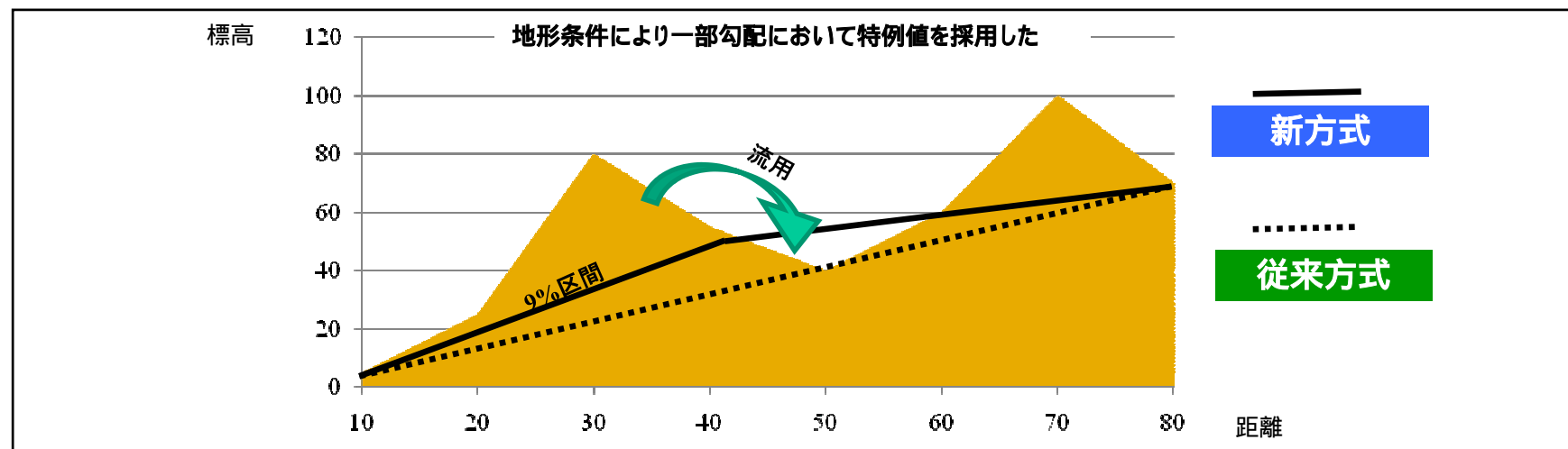
具体的事例の代表的な取組例(平成21年度)

弾力的な計画・設計の促進

農林業用道路において設計基準の特例値を用いて縦断勾配の見直し

概要: 農林業用道路の縦断線形設計において、設計基準である7%勾配から特例値である9%を採用して道路土工量を削減したことにより工事作業量や用地の減、工期の短縮等によりコスト縮減を図る。

効果: 道路土工量の削減による工事作業量及び用地の減、工期の短縮でコスト縮減。また、伐採範囲の減少に伴う環境負荷軽減。



具体的事例の代表的な取組例(平成21年度)

計画・設計・施工の最適化

モザイク施業の導入に伴うコスト縮減

概要：水源かん養機能のみならず、森林のもつ多面的な機能を高度に発揮するため、前生広葉樹等を残置しつつ植栽を行うモザイク施業を導入。

効果

モザイク施業を実施することにより裾枝払の事業経費を縮減。

従来工法



新工法（モザイク施業）

